

楷 KAI

秋号

2015.9

vol.5

～定子論語だより～



定子論語塾紹介コーナー

第5弾 ～国立の教室をのぞいてみよう～

JR国立駅すぐ近くに税理士法人・大石会計事務所があります。月に2回、この事務所に伺うようになって5年が過ぎました。大石会計事務所は、税務相談はもちろん経営相談、経理事務、創業支援等幅広い業務を手がけています。また経営フォーラムや異業種交流会といったイベントも企画・実施しています。くにたち論語塾もその中のひとつです。事務所の社員さんととどまらず一般の方の参加も多く、いろいろな出会いが生まれる場にもなっています。

くにたち論語塾

毎回、気持ちのいい、きびきびとした挨拶から始まります。学ぶ気持ちが伝わってくるような響きだと、いつも感じます。夕方6時半からのクラスですので、お仕事帰りの方も多いでしょう。大石会計事務所の方はお仕事を中断して、論語塾に参加されることもあるでしょう。皆さんがそれぞれに自分の時間を割いて、ここに集まってきます。目標を持っている方々の集いには、真剣さだけではなく清々しさもあります。皆さんの想いが心地よい雰囲気を作り出しているのだと思います。

『論語』は約500章からできています。これをひとりで読破しようと思うと、心折れそうになりますが、仲間と一緒に続けられます。くにたち論語塾は、大石所長の想いを共有する事務所の皆さんが中心となり、素読の声も大きく勢いがあります。元気な声は、さらに人を元気にします。きっと参加されている皆さんも感じていらっしゃることでしょ。他のクラスにはない魅力です。

5年が過ぎ、『論語』500章を読み終え、現在は2周目に入りました。初めて『論語』に触れた時には気づかなかったこと、理解できなかったことが、2回目には、すうっと腑に落ちたり、また新しい発見があったり…。

『論語』は読むたびに新鮮です。だからこそ何度も読みたくなるのでしょうか。

開塾当初から参加して下さっている方に加えて、随時新しい方の参加も増えています。年齢・性別に関係なく、誰でもいつからでも



読み始められるのが、『論語』のいいところです。若い方が多いのもこの塾の特徴です。仕事や立場が異なれば、悩みも異なります。背負っているものも、人間関係も、年を重ねると変化していきます。人生万象の答えが『論語』の中にあると言われていました。皆さんと一緒に、長く味わいながら読み続けていくことが、私の願いです。

毎回、夕暮れていく空を眺めながら、くにたち論語塾に向かいます。国立駅前に降り立てば、目の前には見事な桜並木。季節ごとに風情が違います。ゆっくりとこの街に『論語』が根付いてくれたら嬉しいです。



主催者の言葉

税理士法人 大石会計事務所 所長
大石 豊司氏

かつて論語を学びたくて教室を探していた折、雑誌『一個人』に上野の東京松屋さんの論語教室が小さく紹介されていたのを見つけました。しかも講師は安岡正篤先生の御令孫安岡定子先生。これを見逃さなかったのが私の運の強いところです。早速申し込み、一年間通わせていただきました。

論語と聞くと、堅苦しいイメージをお持ちになる方も多いようですが、安岡先生の教室は私にとって意外なものでした。とても優しくそして癒される空気感に満ちていたからです。この学びを多摩地区の方にも経験して欲しいと、先生にお願いし始まった国立市での定例講座は5年目になりました。

私どもが経営者から受ける相談は白黒判断がつきかねるものばかりです。なにより私自身が迷い悩んだ時の判断の拠り所が欲しいと思っていました。そのために論語はうってつけの教材です。しかし、これを独りで学ぶのは大変なことです。

論語には出来そうで出来ないことが書かれているように思います。家内からは、「論語を勉強しているのにね」なんて嫌味を言われたりしますが、簡単に出来ないからこそ2500年にわたり読まれているのではないのでしょうか。日本人の精神世界にぴったりの論語が、ますます普及する様お役にしたいものです。